

## 課題解決的な学習に工夫・改善を加えましょう

教師の発問に対して断片的な知識を答えるといった授業に対して、知識を構造化するために、課題解決的な学習を基本とする授業が注目されてきました。より多くの授業で、無理のない形で、課題解決的な学習を取り入れていくことが望まれます。

しかし、課題解決的な学習は、万能ではありません。実践する中で出てくる様々な問題点を克服するための工夫・改善を重ね、よりよい実践を目指しましょう。

### 1 課題解決的な学習の工夫・改善

課題解決的な学習の問題点としてよく取り上げられるものに、調べたことを発表するだけになり、調べたこと以外の事項は分からない、クラス全員で考えたり解釈したりという活動ができない、というものがあります。

そこで、この点を克服するために工夫した例を紹介します。調べたことを発表させ、その内容をもとにして本時の学習課題をつくり、それについて話し合い活動をするこを、意図的に構成したものです。

【事例14】		調べたことを発表し、それを活用して課題を設定し、話し合いを行う		
段 階		ねらいと主な指導内容	主な資料	
共通 課題 設定	第 1 時	<p>共通課題・追究のための具体的課題を設定し、学習計画をたてさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">なぜ江戸幕府は滅びたのだろうか。</div> <p>A ペリーを中心とした外国の動きについて                      B 開国の影響について                      C 薩摩藩について                      D 長州藩について                              E 吉田松陰について                      F 高杉普作について                          G 坂本竜馬について                      H 戊辰戦争と栃木県について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大政奉還の図</li> <li>・小学校の教科書</li> <li>・教科書</li> <li>・資料集の年表</li> <li>・配布資料</li> </ul>	
	追 究	2 3	<p>具体的課題を選択させ、追究させる。 A～Hからグループごとに課題を選択し、追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに配布する資料</li> </ul>
	第 4 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ペリー来航は日本にどんな影響を与えたのだろうか。またなぜ幕府は条約を結んだのだろうか。</div> <p>1 グループ発表 A・B                      2 開国が日本に与えた影響について具体的に話し合う。                      3 このような条約を結んでしまった理由について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が準備した資料</li> <li>・幕府と薩長の武器の性能比較TPシート</li> </ul>	
	第 5 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">薩摩・長州藩は倒幕にどのような役割を果たしたか。</div> <p>1 グループ発表 C・D・E・F                      2 薩長が倒幕運動に転換した理由について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が準備した資料</li> </ul>	
	第 6 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">民衆は幕府にどのような影響を与えたのだろうか。</div> <p>1 グループ発表 H                      2 この時期に一揆・打ちこわしが多発する理由を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が準備した資料</li> <li>・打ちこわしTPシート</li> </ul>	
ま と め	第 7 時	<p>どのように江戸幕府は滅びたのかまとめる。</p> <p>1 ペリー来航以降の変遷を年表に書いて確認する。                      2 重要地名を地図で確認する。                      3 どのように江戸幕府が倒れたのかを各自まとめて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント</li> <li>・単元のまとめ</li> <li>・白年表</li> <li>・日本地図TPシート</li> </ul>	

## 2 課題解決的な学習の落とし穴 「生徒の思考を規定している？」

課題解決的な学習は、導入、学習課題、展開がセットとして考えられています。導入では、授業のねらいに迫るための展開がスムーズに流れ、展開に入っていくための学習課題が言葉としてうまくまとまるように、意図的に思考を揺さぶります。つまり、生徒が「なぜ なのだろう」と、そのまま学習課題になるような声を発するように、意図的に思考を方向付けます。その言葉が学習課題となり、ねらい通りの展開が進められていきます。教師は、導入から学習課題設定、展開の活動まで、生徒の思考が乱れることのないようにすることに細心の注意を払って、授業を組み立てます。

しかしながら、このように組み立てられた課題解決的な学習は、一連のプロセスが意図的に構造化されているが故に、生徒の思考をあらかじめ規定しかねない危険性を伴っています。つまり、教師のはたらきかけで、生徒の思考の流れが一方方向にできてしまうように仕組みられているのです。特に一授業一学習課題の課題解決的な学習は、その傾向が強くならざるを得ません。このような問題点があることを意識し、この問題点を乗り越える指導過程を工夫していきましょう。

ここでは、課題解決的な学習が形骸化しないようにし、課題解決的な学習を基本として、よりよい授業構想をするためのチェックポイントを示します。

### 課題解決的な学習を基本として、 よりよい授業構想をするためのチェックポイント

#### 導入では

- 事実認識を丹念に行わせているか。
- 生徒は本当に驚いたり、矛盾点に気が付いたりしているか。
- 想定している学習課題は、生徒の思考の流れに基づいたものであるか。
- 「課題とは、扱う内容や方法に見通しがもてたとき設定できるはずであり、授業や単元のはじめの段階での設定が可能なのか」という疑問を、教師がもっているか。

#### 展開では

- 生徒は、調べ学習と称して「写し学習」「ネットデータ貼り学習」をしていないか。
- 課題解決のためには、試行錯誤の過程が必要であるという認識をもち、結論が出るまでの紆余曲折の過程を大切にしよう工夫し、指導しているか。
- 「課題とは、授業を進めていくにつれて発展的に広がりをもつものであり、設定した課題を解決して終了してよいものか」という疑問を、教師がもっているか。

#### 終末では

- 発見・気付きは本当に起こっているのか、内容は本当に理解できているのか。
- 調べたことを発表するだけで終わっていないか。
- 生徒の様々な気付きや意見を生かし、生徒の実感を伴う形で、多面的・多角的にまとめられるよう工夫しているか。
- 授業を進めながら生まれてきた新たな疑問をまとめ、発展的な学習や自主学習、それ以降の単元の学習につなげるように工夫しているか。

注) の項目は、「落とし穴」を意識したもの

### 3 オープンエンドの授業の実践

課題解決的な学習の「落とし穴」を克服するための工夫・改善を突き詰めていくと、オープンエンドの授業に行き着きます。「オープンエンド」とは、単に「答えを提示しない授業」ではありません。一言で言えば、問い続けられように工夫された授業のことです。一つの学習課題を解決したらそれで終わりではなく、問い続けられるように指導過程が工夫された授業のことです。この方法を実践することで、社会的事象をより具体的、分析的に、より多面的・多角的に扱うことができます。

ここでは、オープンエンドの授業の流れを一般的な課題解決的な学習と比較してまとめましたので、課題解決的な学習の発展に役立ててください。

#### 【事例15】

#### オープンエンドの課題解決的な授業

##### ねらい

「思考の往復運動」をさせることで、生徒の知識を断片的な「点的知識」から構造化された「立体的知識」に構成し、生徒の思考を発展させること。「思考の往復運動」とは、課題解決的な学習のような一方の決められた思考の流れではなく、立ち止まったり、立ち返ったり、違う方向から考え直したりしながら考えていくことである。

##### 指導過程

小さな、素朴な疑問から出発し、小さな課題を少しずつ解決しながら課題自体が発展し、課題が大きなものになっていき、大きな課題に挑戦させられるように設計された授業である。

通常の課題解決的な授業	オープンエンドの課題解決的な授業								
<p>1 教科書の「10アールあたりの米の生産量の変化」のグラフを見て、気付いたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国、A町とも生産量が増加していることを押さえる。</li> <li>・戦後のA町の伸びはすばらしく、全国平均を大きく上回っている事実に着目させる。</li> </ul> <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>A町では、どうして10アールあたりの米の生産量が増えたのだろうか。</p> <p>3 教科書や資料集を利用して、学習課題を追究する。</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>品種改良</td> <td>土地改良</td> <td>土づくり</td> </tr> <tr> <td>早い田植え</td> <td>農薬の進歩</td> <td>機械化</td> </tr> </table> <p>4 まとめ</p> <p>この授業の場合、A町が全国平均を抜いた時期は終戦直後であるのに、～は1970年代のことであり、もっと追究する価値のある課題を設定していない。また、～の関係が問われず、知識が構造化されていない。</p> <p style="text-align: right;">【参考文献】 片上宗二：著「社会科授業の改革と展望」「オープンエンド化による社会科授業の創造」明治図書</p>	品種改良	土地改良	土づくり	早い田植え	農薬の進歩	機械化	<p>1 教科書の「10アールあたりの米の生産量の変化」のグラフ見て、気付いたことを発表させ、はじめの小さな課題を設定し、追究する。</p> <p>どうして10アールあたりの米の生産量が増えているのだろうか。(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～のうち、いくつかを列挙できる。</li> <li>・戦後の数年間に全国平均を抜くことに着目させる。</li> </ul> <p>2 少し大きな課題を設定し、追究する。</p> <p>なぜA町は、戦後一気に、全国平均を抜くことができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦直後の農業政策と生産量の間係を考慮することができる。</li> </ul> <p>3 大きな課題を設定し、追究する。</p> <p>なぜA町は、その後も、全国平均を上回り続けられるだろうか。「技術の進歩」と「基盤整備」という観点から考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～を構造化してとらえられる。</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>技術の進歩</td> <td>基盤整備</td> </tr> </table> <p>4 さらに大きな課題を提示する。</p> <p>政府の農業政策と生産の間係を考えよう。</p>	技術の進歩	基盤整備
品種改良	土地改良	土づくり							
早い田植え	農薬の進歩	機械化							
技術の進歩	基盤整備								